



身近な気候変動の影響を感じる

市民調査員による生物季節モニタリング

国立環境研究所では、気候変動の影響評価等に役立つ情報を得るため「植物の開花や鳥の初鳴きなどの生物の季節的な反応」を観測する生物季節モニタリングを行っています。

市民調査員は常時募集されており、初めての方も参加が可能です。

生物季節情報から気候変動が見える

春の開花時期の早期化や、秋の紅葉の遅れなど、様々な現象が確認され始めています。

「生物季節」(生物の季節的な応答)に関する情報の蓄積は、気候変動が環境に与える影響を評価する上で非常に有効であるとされています。

過去の観測を生かした試行調査

気象庁・環境省・国立環境研究所は連携・協力し過去の生物季節観測を生かす形で、現代的に発展させる2種の試行調査に着手することにしました。

- ◇ 専門的な調査
◇ 広く一般市民に参加いただく調査

生物季節観測の規模縮小

気象庁では、季節の遅れや進み、気候の違い・変化を的確に捉えることを目的として1953年から全国58地点で植物34種目・動物23種目について開花や初鳴き等を観測してきました。

しかし、観測所となる気象台が市街地に位置することが多く、都市化や気候変動の影響により観測対象が見つからないことや、観測対象の木(標本木)の確保が難しくなったことから、2021年から代表的な植物6種目の9現象以外の観測を廃止しました。

市民の協力を求めて試行調査を開始

国立環境研究所は、2021年から試行調査の一つとして市民調査員による「生物季節モニタリング」を開始しました。

現在、全国から530人以上(個人498人、団体22)、栃木県は9人(5市1町)が参加しています。

散歩・通勤・庭先で自然に目を向け気候変動影響を考えてみませんか

市民調査員の活動内容と参加方法

対象種目の例

- タンポポの開花日 ● ツバメの初見日 ● ウグイスの初鳴日
● モンシロチョウの初見日 ● アブラゼミの初鳴日
● ヒグラシの初鳴日 ● カキの開花日 ● ツバキの開花日
● ヒガンバナの開花日 ● アキアカネの初見日

植物32種目、動物34種目が観測対象ですが、すべてを観測する必要はありません。庭の草花や、散歩や通勤途中などで、身近な対象種を観測するものです。

生物季節 モニタリングの詳細な内容は こちら



1 調査員に登録

問い合わせ窓口でメールし、案内される登録フォームに入力

2 観測地点・調査種目の決定

見分け・聞き分けできる生物を選択

3 観測地・調査種目の決定

自宅近くなど長期的に観測可能な場所を選定

4 マニュアルに従い調査

週1回以上のペースで実施

5 観測記録を報告

生物季節現象を確認したら、データシートに入力し、メールで提出

栃木県のデータは少ない状況です。団体での参加も可能！学校や企業の敷地や周辺で観察しませんか

栃木県気候変動適応センター【事務局：栃木県環境森林部気候変動対策課 ☎028-623-3187】

気候変動とその影響、気候変動影響による被害を回避・軽減するための適応策に関する情報はセンターHPを御覧ください。

(https://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/tochi-tekiou.html)



X (旧 Twitter)